松餘德若譚

黄立篇上下

逸14
2687
5

へ14 特
2687
5

松飾

徳若譚

五編上

假名垣作　壬申夏
錦朝楼　加て吉版

福田文庫

一

宵の間は待らふしつゝ暁の夢このとぞろの時鳥。トあれ永出る、
腰折歌。うち吟じ居ぐら閨を起出るは翌日と指かゝるまゝ
卯月十一のより七日にぞ有まる。扨は鶏ぶ鳴東照しゆす
御神の忌ふ當まりとやゝとなりぬ。さし昇る旭の影若葉
青葉ふ光うつろる最尊く。頓ふ嘯手水して礼拝を
遂る折しも青盛堂の丁稚。草扉を敲きて此徳若の
五編を促迄今ハ遅く出る際ふあるぞと机上ふ對ひ毫を
採るに又も一声郭公先生このものゝ

假名垣魯文記

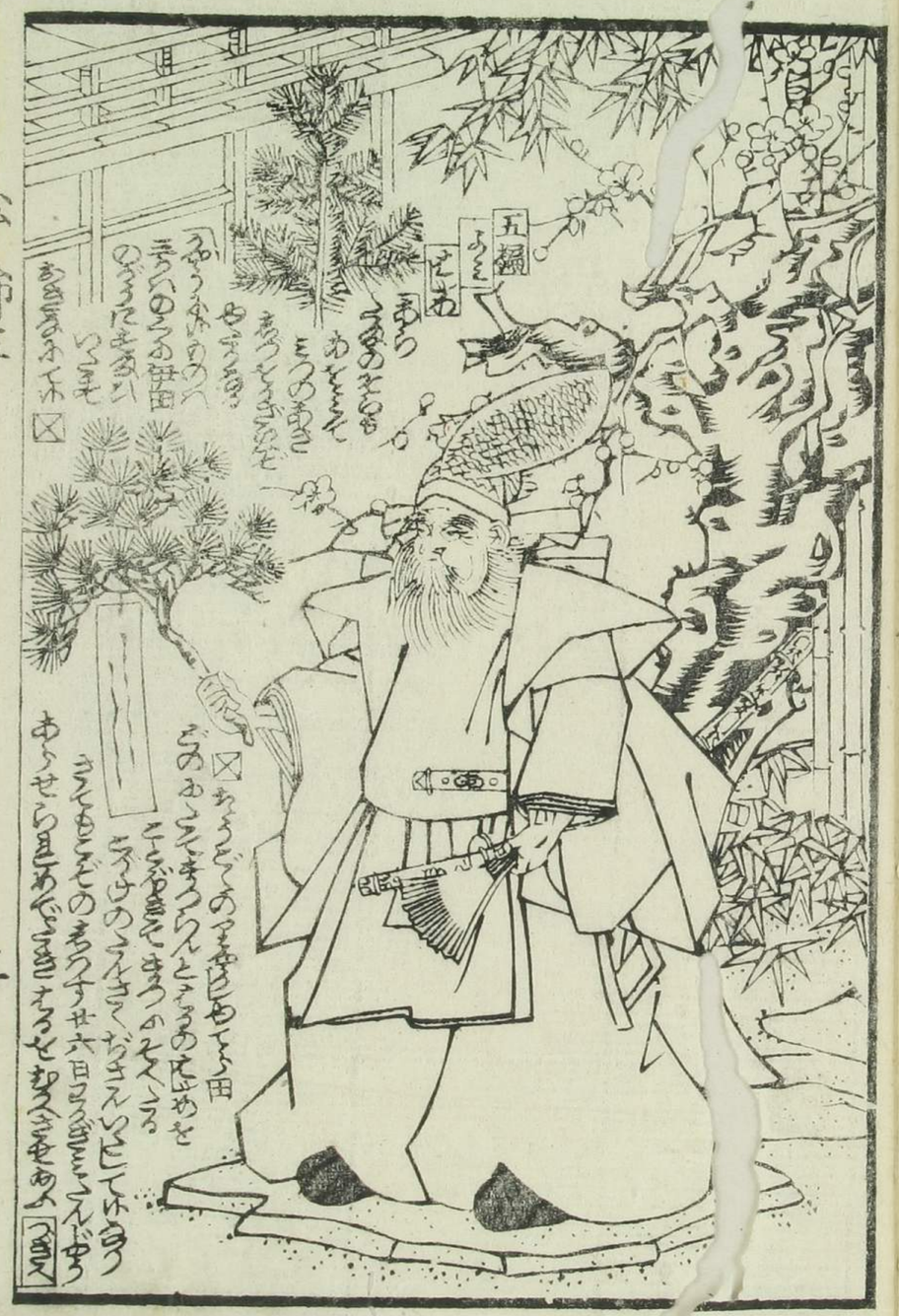
廣忠朝臣
奥方
臺の前
寺田家勇臣
金田壮八郎 正貞

廣忠嫡子
徳若丸
逆賊
戸田苔五郎
綱光

松飾徳若譚第五編巻中略目

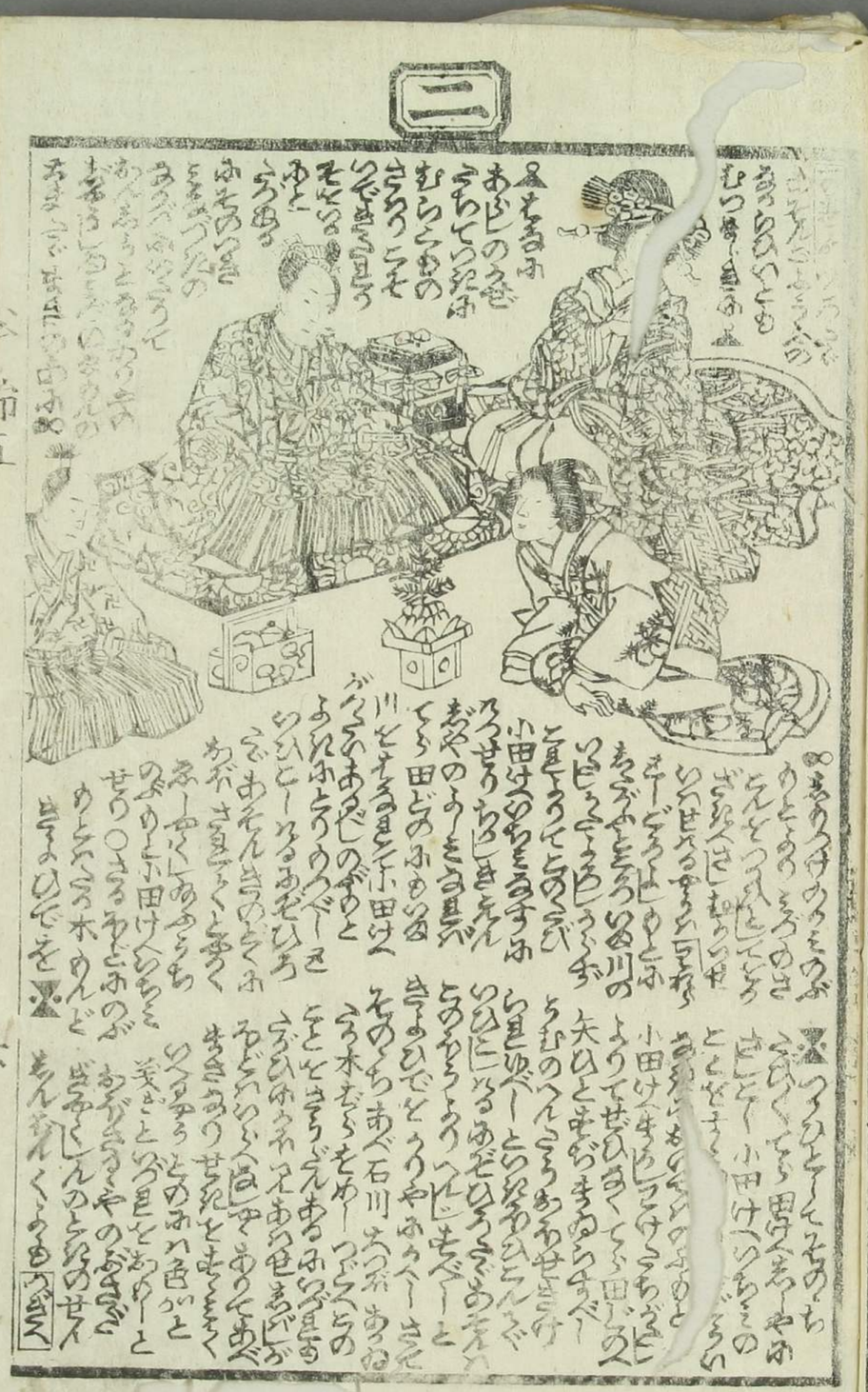
○神童降誕の奇瑞い松の緑子黄金の短冊
○信義離別の恩愛い再び照せど貞操の破鏡
○凶刀殺氣の禍難い岩松鉢弥が幸若の剣舞
○臨奇應変の遠計い瞽女間者ぶ裏ぞろ覗
○五拾貫文ぶ一家を賣る戸田綱光が送り狼心

都計五回　作者再記



春亭貴徳筆
伊田八まんよろ

其



公命五

ひとのあいどの
まあるしあれか
さんせとうろうど
ぞえそろうろうもの
とのすきのあと女中
わきまのくさをきろう
て「そろそやとのきろう
あろうとすてくる
あいどあるさこの
やめあーくく
サァこと
きろとろく
きまくあと
にまるにあげ
ろくまびい
つやできろう
そくーて
ぶくのその
こをそどめ
ま
せ
うろ
サク

松飾五

松飾五

松飾徳若譚　五編　六編　七編　假名垣魯文作

今朝春三組盃　初編　二編　三編　山々亭有人補綴　三遊亭圓朝作話　錦朝楼芳虎画図

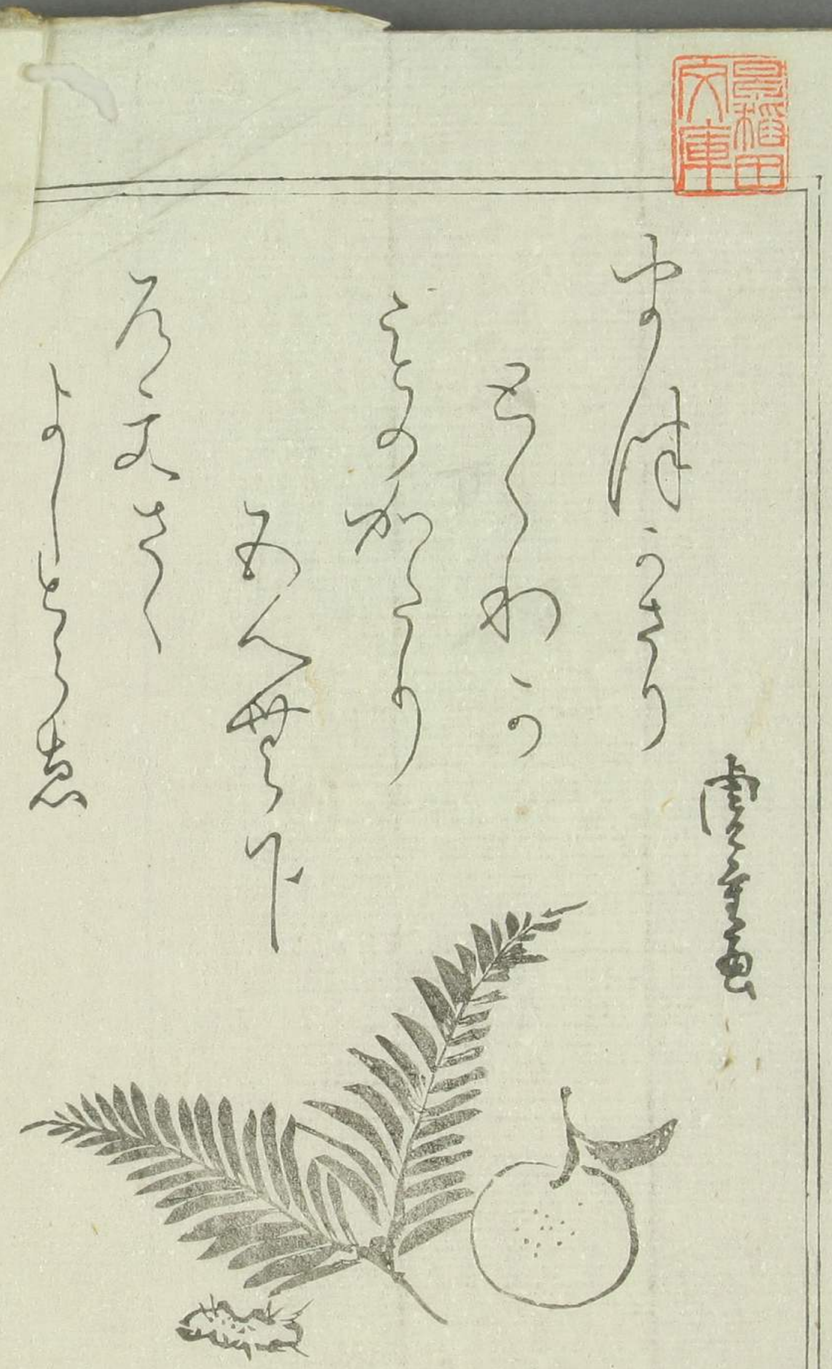
いろは節要　初編　十編　山々亭有人作　歌川周重画

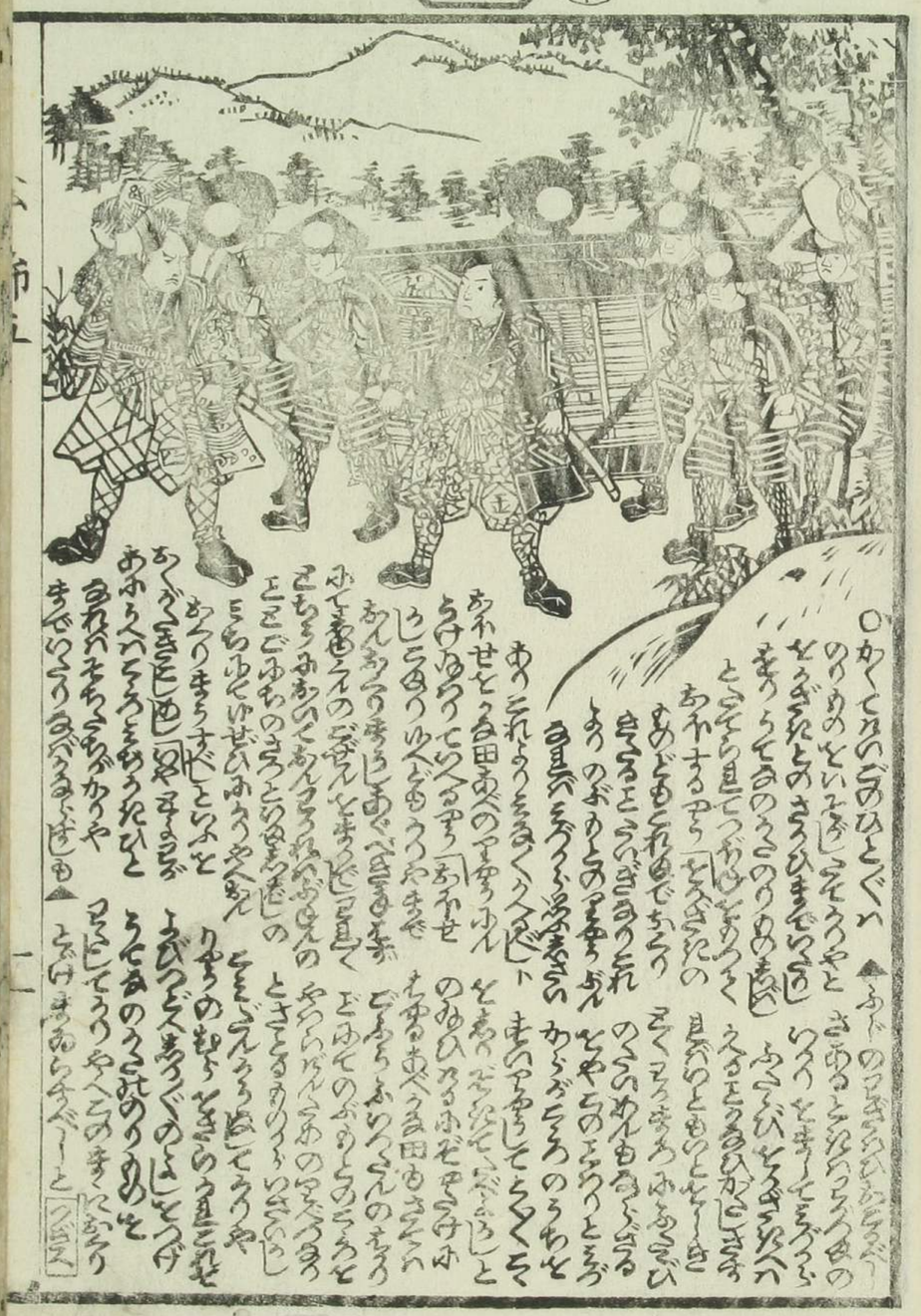
繪本太豐記　初編　二編　三編　孟齋芳虎画作

地本問屋　両國廣小路　加賀屋吉兵衛板

五編下

宮内庁書陵部





三州碧海郡刈屋領
水野下野守信元領地

西
三州碧
水
郡刈屋領
下野守信元領地
五
四

高
大

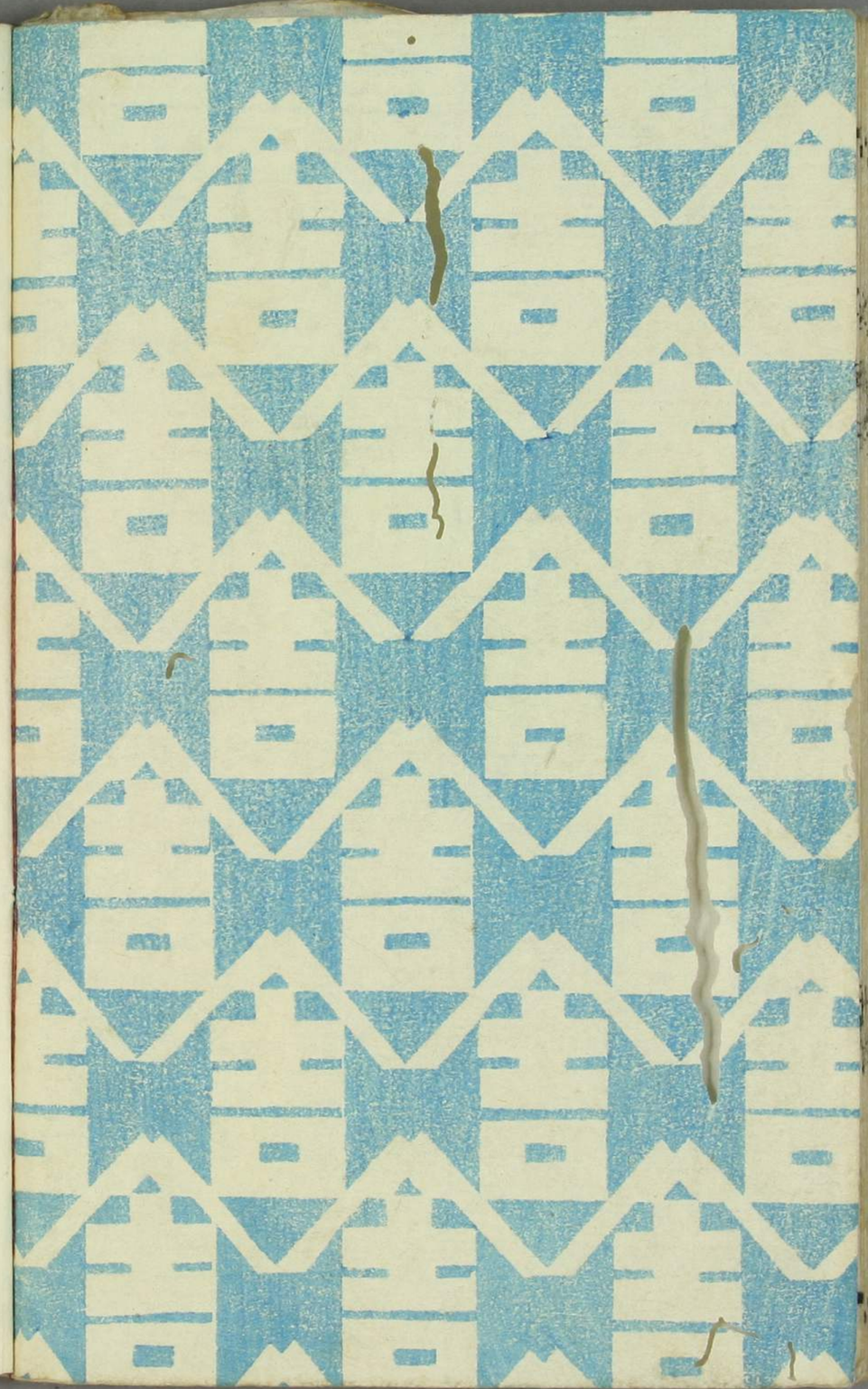
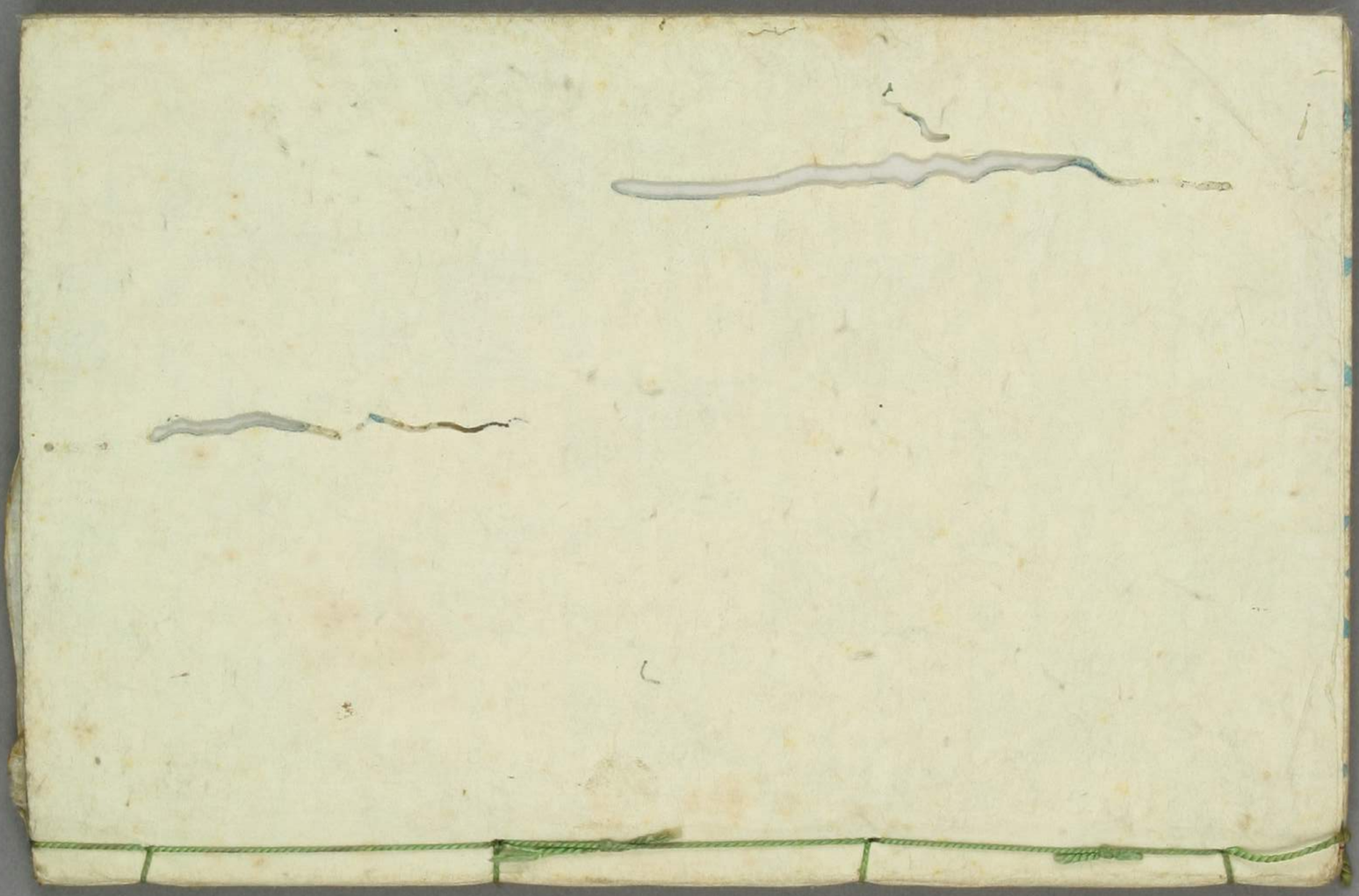
鉢

假名垣魯文編　一孟齋芳虎画

新增補西國奇談　廿編　爲永春水作　廿一編　孟齋芳虎画

薄緑娘白浪　九編　假名垣魯文作　十編　錦朝樓芳虎画

隅田川月と梅若　五編　柳亭種彦作　山々亭有人編次　六編　孟齋芳虎画

繪本太閤記　三編　孟齋芳虎作

地本問屋　西國廣小路　加賀屋吉兵衛板